

## 特別展「地震展2008」を開催します —今わかっていること・知ってほしいこと—

大阪市立自然史博物館では、平成20年10月25日(土)から12月7日(日)まで、長居公園内の「花と緑と自然の情報センター」2階ネイチャーホールにおいて、特別展「地震展2008」を開催します。

私たちが暮らす日本列島は、世界で最も地震活動が活発な地域であり、いくどとなく地震の被害を受けてきました。大阪をはじめ近畿もその例外ではありません。1946年12月の昭和南海地震、1995年1月の「兵庫県南部地震＝阪神淡路大震災」では、甚大な被害を受けました。また、西日本は「地震の活動期」に入ったと考えられており、この地震活動期は、近い将来に紀伊半島沖の南海トラフで起こる次の「南海・東南海地震」まで続くと考えられています。

このように日本で暮らす以上、地震の危険性から目を背けることはできません。そして、大阪の地形や自然を理解する上で、地震をはじめとする地学的な現象を知ることもまた欠かせません。

そこで本特別展では、地震とは何か、どうして日本では地震が多いのかといった基本的なことから、大阪周辺の活断層の分布や動き、今後数十年のうちに起こる可能性が高い次の南海・東南海地震について、科学的にどこまでわかってきたのか紹介します。地震に関する最新の研究成果をわかりやすく解説し、市民のみなさんの疑問や不安に答え、防災や減災についても考える機会としていきたいと考えています。地震を恐れるだけでなく、知ることを備えの第一歩とし、さらに地球や地域を読み解く地学の視点へとつなげ、理解してもらうことを狙いとしています。

### [展示の主な見どころ]

大阪をおそう地震として、プレート境界地震である南海・東南海地震と、活断層による内陸地震の2種類に焦点を当てて、詳しく紹介します。

南海・東南海地震では、過去に起きた昭和・安政・宝永時代の地震の比較から、次の南海・東南海地震についての予測を紹介します。安政南海地震の被害を伝える瓦版などから大阪での被害についても紹介します。

内陸地震では、大阪周辺の活断層について、トレンチ調査(注1)の結果わかってきたことや、活断層の実物標本(はぎ取り標本)を集めて、その断層ごとに読み取られた断層の履歴書と将来の活動予測についての解説をします。

また、記念講演会(講師：京都大学防災研究所教授 川崎一朗氏)を開催するほか、地震をテーマとしたワークショップやオープンセミナー、テーマ別自然観察会「活断層を歩く」など盛りだくさんの関連行事を併催します。さらに、関心を深めていただく一助となるよう、起震車による地震体験ができる機会を設けます。

本特別展を通して、兵庫県南部地震による被害の記憶を風化させることなく、市民のみなさんの防災に役立てていただければと思います。

注1 トレンチ調査：活断層が通過すると考えられる場所に、調査のための溝(トレンチ)を掘り、掘り出した壁面の地層の積み重なりやズレを観察することで、活断層の過去における活動や最新の活動時期などを調べる調査方法。

## [開催概要]

- 1 名 称 大阪市立自然史博物館 第37回特別展「地震展2008」
- 2 主 催 大阪市立自然史博物館、特定非営利活動法人大阪自然史センター
- 3 後援(予定) 大阪府、大阪府教育委員会、文部科学省
- 4 会 期 平成20年 10月25日(土)～12月7日(日)  
ただし、毎週月曜日(祝日の場合は翌日)は休館。会期38日間。
- 5 会 場 大阪市立自然史博物館 ネイチャーホール(花と緑と自然の情報センター 2階)  
〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23 TEL 06-6697-6221 FAX 6697-6225  
地下鉄御堂筋線「長居」3号出口東へ800m JR阪和線「長居」東へ1000m
- 6 入 場 料 大人400円、高校生・大学生 300円(30人以上団体割引あり)  
本館(常設展)入館料(大人300円、高大生200円)とのセット料金は、大人600円、  
高大生400円。  
※長居植物園へは別途料金が必要(ただしセット料金は植物園入園料を含む)。  
※中学生以下、障害者手帳などをお持ちの方、大阪市内在住の65歳以上の方(要証明)は無料。
- 7 開館時間 午前9時30分から午後4時30分まで(入館は4時まで)、ただし10月31日までは午後5時まで(入館は4時30分まで)

## [展示構成]

### 第1部 最近地震が多い?(はじめに)

1995年兵庫県南部地震(阪神淡路大震災)以降、人的・物的被害が伴う地震(被害地震)が毎年のように起こっています。写真イメージで振り返り、私たちが暮らす大阪をおそう地震をはじめとした、地震について考える導入とします。

### 第2部 地震の正体

日本では古くから、地下で「大ナマズ」が暴れると地震が起こると考えられていました。自然科学が解き明かした地震の正体を紹介します。そしてどうして日本で地震が多いのかを解説します。

### 第3部 近畿の活断層

内陸や都市の直下で地震を起こすのが活断層です。大阪周辺に分布する活断層を床に貼った大きな地質図で示し、その特徴を解説します。トレンチ調査で採取された断層の実物標本(はぎ取り標本)で、地震による「大地のズレ」を実際に観察していただけます。

#### 第4部 揺れを科学する

地震観測に欠かせない地震計の仕組みや、マグニチュード・震度など基礎的な知識を解説します。兵庫県南部地震から10年間で飛躍的に進んだ、最新の地震学でわかってきた地震の姿も紹介します。

※小型の地震計を設置し、展示室内で床を踏むとその揺れを地震波として観察・体験できます。

#### 第5部 地震で何が起こるのか

地震によって引き起こされる被害を、1995年兵庫県南部地震（阪神淡路大震災）を中心に紹介します。また地震で忘れてはいけない、津波の被害も解説します。

#### 第6部 過去の地震を調べる

過去に起こった地震をしらべることは、将来起こる地震に備えるために大切なことです。古文書・考古学・地質学など様々な分野の調査でわかってきた、過去の地震を紹介します。

#### 第7部 大阪をおそう地震1・南海地震

私たちが住む大阪をおそう可能性がある地震として、南海地震があります。およそ100年周期で起こってきた南海地震をしらべ、近い将来に起こる次の南海地震の姿を探ります。

#### 第8部 大阪をおそう地震2・活断層による地震

大阪の周辺にある活断層が地震を起こすと、どれくらいの被害が出るのか、国や自治体による被害予測と対策について紹介します。

#### 第9部 地震に対する備え

地震から身を守るためにどうすればよいのでしょうか。地震を知って考えることで防災・減災の基礎知識を身につけましょう。大阪市が行っている地震対策も紹介します。

①有馬-高槻構造線のトレンチ写真



茨木市内で実施された有馬-高槻構造線活断層系、真上断層のトレンチにあらわれた、地層のズレ。一番新しい地震では、室町時代の地層までがずれており、江戸時代の地層がずれていないので、1596年の慶長伏見地震でずれたことがわかった。(産業技術総合研究所、吉岡氏提供)

②石本式地震計 (和歌山県立耐久高校所蔵)



1980年頃まで、同校で地震観測に使われていた地震計

③大坂大津波図 (大阪城天守閣所蔵)



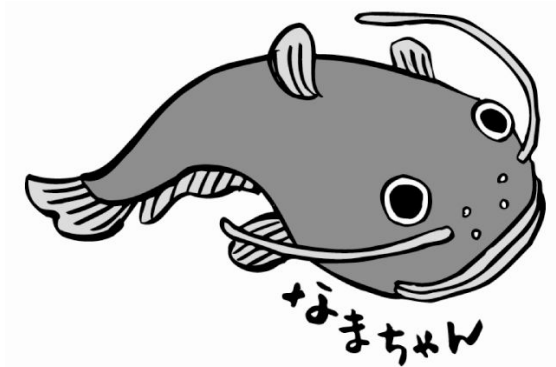
安政南海地震の津波被害を伝える瓦版

④地震けん (大阪城天守閣所蔵)



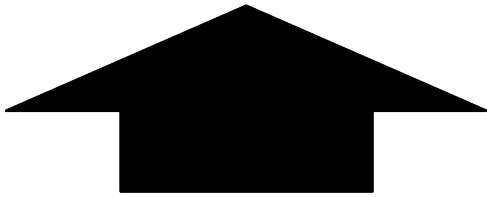
日本では古くから「鯰が暴れると大地震が起きる」と信じられてきました。江戸時代の終わりごろとなる安政2年(1855)10月2日、江戸を直下型地震が襲い、大災害となりましたが、その直後から地震の象徴としての鯰を描きこんだ「鯰絵」とよばれる多種多様な印刷物が町中に出回りました。これもその一つとみられます。描かれているのは「地震・雷・火事・おやじ」という、世の中で恐ろしいもの4人が拳【けん】遊びに興じている様子です(今のじゃんけんも拳遊びの一種です)。「鯰絵」の多くはこのように面白おかしく描かれています。

⑤なまちゃん



©大阪自然史センター

地震展 2008 のキャラクターは「なまちゃん」です。



## <FAX送信>

FAX. 06-6697-6225

送信先：大阪市立自然史博物館  
管理課広報 宛  
TEL.06-6697-6221, FAX.06-6697-6225  
〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園 1-23

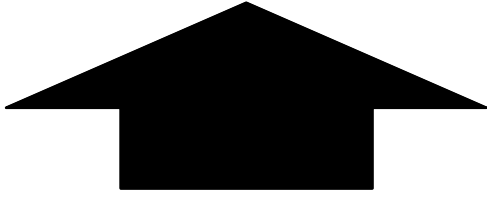
## 「地震展 2008」

会期中、会場内における取材をご希望される方は、下記該当箇所をご記入の上、原則、ご取材の3日前までにFAXにてお送りください。なお大変恐縮ですが、撮影時間につきましては、会場の混雑状況などにより、事前に調整させていただく場合がございます。あらかじめご了承くださいましたら幸いです。

またお手数ですが、掲載媒体を1部（掲載紙・誌、DVD、ビデオ、カセット、MD など）お送りくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 取材申込書

貴社名	
媒体名	
所属部署／ご担当者名	
取材日	2008年 月 日 ( ) : ~ :
人数 (カメラ含む)	
ご住所	〒
ご連絡先	TEL. FAX. e-mail.



## <FAX送信>

FAX. 06-6697-6225

送信先：大阪市立自然史博物館内  
管理課広報 宛  
TEL.06-6697-6221, FAX.06-6697-6225  
〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園 1-23

## 「地震展 2008」

### 広報写真申込書

本展覧会の広報用写真をご用意しております。ご希望の写真に○印をつけ、下記にご記入の上、ご返信ください。

- ・写真使用は本展のご紹介のみとさせていただきます。尚、本展終了後の使用は出来ませんのでご了承ください（掲載期間：2008年12月7日まで）。写真の使用後は、データは破棄してください。
- ・掲載記事・番組内容については、基本情報確認のため、グラブリ・原稿の段階で管理課広報宛までFAXまたはメールをお送りください。また、ご掲載いただいた場合は、お手数ですが、掲載媒体を1部（掲載紙・誌、DVD、ビデオ、カセット、MDなど）を管理課広報宛にお送り下さい。

No	写真名	ご希望に○
①	有馬-高槻構造線のトレンチ写真	
②	石本式地震計（和歌山県立耐久高校所蔵）	
③	大坂大津波図（大阪城天守閣所蔵）	
④	地震けん（大阪城天守閣所蔵）	
⑤	なまちゃん	

貴社名	
媒体名	
掲載・放送予定日	
所属部署／ご担当者名	
ご住所	〒
ご連絡先	TEL. FAX. e-mail.